

# HFHJ Newsletter

ハビタット・ジャパン ニュースレター

第17号 2010年4月発行

## ハイチ大地震被災者支援：緊急支援、本格化へ

1月12日、カリブ海地域のハイチでM7.0の大地震が発生、20万人以上が犠牲となり、100万もの人々が家を失いました。ほぼハイチ1カ国を、また最貧国を襲ったという点で、2004年のスマトラ島沖大地震・インド洋大津波(14カ国が被災、死者・行方不明者30万人)を超える大惨事だと報告されています。現地の政府機能が停止し、被災者の置かれる状況が極限に達する中、ハビタットも迅速に支援を開始。被災地では、まず雨風をしのご住環境の整備が課題としてあり、現在、住居修繕キットの配布を中心とした緊急支援を行っています。また、今後支援の重点を住居建築へとつなげていくための準備も並行して進めています。(事務局・山本真太郎)



ハイチの被災状況

### ハビタットの緊急支援プラン

人口の1/3を超える300万人が被災しているという中、現地では、被災者の多くがビニールシートをかぶせただけのテント生活を余儀なくされています。ハビタットは、これまで行ってきた災害支援の経験に基づき、ハイチ支援の全体像を構想。まずは緊急支援として、住居修繕キットの配布や瓦礫撤去を通じた雇用創出プログラム、簡易住居の建築などに焦点を置いた支援を計画、実施しています。

### 住居修繕キットを配布

09年のフィリピン台風水害支援と同様、現地では住居修繕キットの配布を行っています。キットには、ショベル、ノコギリ、金づち、防水シートなど、被災者が木材などを使って最低限の住まい

を確保できる工具が揃っており、可能な限り被災者自身による生活再建を促します。3月末には、アメリカや隣国のドミニカ共和国で多くのボランティアの協力により用意された修繕キット8,000セットが被災地に到着しました。当初の配布計画数は10,000セットでしたが、ニーズの高さを踏まえ、今後さらに配布規模を拡大していく予定です。



キットを受け取る被災者

辺では200軒の住居を建築・修繕してきましたが(ハイチ全体では2,000軒)、その200軒のうち、今回の地震による倒壊は2軒のみでした。現在のテスト建築を皮切りに、ハビタットの「安全で丈夫な家」をいち早くより多くの家族に提供できるよう準備を進めています。



テスト建築の様子



テント村の様子

### ハビタットの住居、倒壊せず！

また、ハイチでは5月以降雨季となり、8、9月にはハリケーン到来の時期を迎えます。新たな住居の建築が急務であり、これを受け、現地では簡易住居(シェルター)のテスト建築を開始しました。ハビタットは、これまで26年間に渡り、ハイチでの活動を展開、震源地近くとなった首都ポルトープランス周

### ◆◆◆義援金報告◆◆◆

- ・ハイチ 446,599円 (受付中)
- ・フィリピン 872,317円 (受付終了)
- ・インドネシア 219,863円 (〃)

フィリピン、インドネシアにつきましては、3月末をもちまして、義援金の受付を終了させていただきました。皆さまからの温かいご支援、誠にありがとうございました。ハイチにつきましては、引き続き受付を行っておりますので、ご支援よろしくごお願い致します。※詳しくはホームページをご覧ください。

## 家づくりワークショップ@SPRING LOVE (4月3・4日)



音楽やアートなど身近にあるカルチャーの力を通して平和の尊さを伝える春の祭典、「SPRING LOVE～春風～」。さまざまなフィールドで活動を展開するアーティストや団体が参加する中、我々がハビタット・ジャパンもブースを出展！今回は、その模様をお伝えします。(青山学院大学CClub・水野牧、早稲田大学CClub・谷岡芳夫)

ハイチでの活動を身近に感じてもらう、そして「家の大切さ」を肌で感じてもらう、リアルな「建築現場」として多くの方が立ち寄っていかれました。

### 肌で感じた「家の大切さ」

一緒に企画を行った学生スタッフ(CC&CClub)からは、「普段ボランティアに関わりのない人でも、ハイチ支援をしたいと考えている人は意外に多いんだな～」といった感想もあり、ワークショップ参加者だけでなくスタッフにとっても支援の意義を肌で感じる有意義な2日間となったようです。

今回のイベントを通じて、集まりました義援金115,605円は、現地活動(本紙1ページ記載)に使用させていただきます。皆さまのご支援ありがとうございました。



### ハビタット、渋谷に「家」を建てる！?

**家**づくりに触れ、家の大切さを知ってもらうことでハイチ復興への支援を呼びかけよう！そんな想いで始まった今回の「家づくりワークショップイベント」。国立を拠点に地域の人々と身近にある自然素材を使った小屋づくり活動を展開するNatural House Projectとの協働で、東京のど真ん中“渋谷”(代々木公園)で「家」を建ててきました！

当日、桜が満開の中、ワークショップには、子供から大人まで世代を超えた様々な方が参加し、土ブロック作りやレンガに見立てた木製ブロックを積み上げて、普段関わることのない「家づくり」を体験。「家づくりって楽しい！」という多くの声を聞くことができました。また、現地被災の報告や写真展示、ハビタットがハイチで建てる住居デザインCG動画の上映、そして募金箱設置と同時に、ハビタットが現地で提供している住居修繕キット、建築資材も紹介。遠い異国の地、



## ハビびと

### 神吉和栄子さん 株式会社ブルデンシャル・リアルエステート・インベスターズ

**踏**み込むのと踏み込まないので大きな差があるんです。そう力強く語るのは、現在、自身の母校、国際基督教大学のボランティアセンターに、ハビタットの活動を通じた社会体験を推奨している神吉和栄子さんだ。

ハビタットとの出会いは08年夏。所属先の企業チームで住居建築活動(GV)に参加しタイで3日間汗を流した。海外の同僚たちも集い、総勢20名で出発。自身はチームの調整役を担当した。今回、「不動産を扱う企業として『家づくり』に繋がりを感じた」とハビタットへの思い

を明かしてくれた。

社会貢献に目覚めるきっかけとなったのは、学生時代に参加したタイでの支援活動。「自分に変化を与えたい一心で行った」がすぐには変わらなかったという。「社会人になり、自分が社会の一員であるという自覚が芽生えて初めて問題意識を持てた」と語る。数年前には別のNGOに参加していたが、支援の有効性や効率性に違和感を覚えた。一方で、「GVは人々の自立に対し多くの取組みがなされている。何より変化が目に見えるのがいい」、「物事を考えるための比重や基準を教えられた」と語る。

今、その経験を伝えるべく、後輩に思いを託そうとしている。

「独特の世界」、神吉さんは社会貢献をそう捉える。「踏み出さないと何も分からない。でも踏み出すと一気に世界が広がるんです。」柔らかい表情で語るその目は、探究心できらきら輝いていた。(青山学院大学 CClub・桑田万優子)



## はじめまして、 慶応支部です！ Ripplus

### 慶応大学がCClubとして誕生！

Q: CClub誕生のきっかけは？

太田: 初代代表である板橋(写真右、前列中央)が、2009年春に参加したタイでの住居建築活動(GV)\*が団体創設のきっかけです。活動参加を通じた人との出会い、現地での活動・交流といった経験が日本帰国後も彼女の心に残り、「自分自身の大学にサークルを作りGV

に参加したい！みんなで楽しくボランティアをしよう！」そう思ったそうです。(\*「地球の歩き方」との共催企画。関連記事: 本ページ左下掲載)



この春、早稲田大学CClubに続いて、国内で17支部目となる慶応義塾大学CClubが誕生しました。創設者である板橋智子さん(4年)から代表を引き継いだ、太田新吾さん(2年)が現代表として、慶応支部Ripplus(リプラス)の今後を担っています。そんな彼に支部誕生とこれからについて取材してきました。(青山学院大学CClub・戸田達也、水野牧)

### プラスの波を広げていきたい！

Q: 団体名「Ripplus」の由来は？

太田: 「Ripple(さざ波)」と「Plus(+)」を合わせた造語で、「プラスの波を広げていきたい！」という願いが込められています。Ripplusの活動を知った方々がハビタットの活動をきっかけに、「社会貢献活動に挑戦しよう！」と思える、そんなプラスの波を広げていきたいと思っています。

Q: 今後の取り組みは？

太田: 定期的なGVに参加する他、GVに関連する国内での活動を実施して行きたいと思っています。まだまだ日は浅いですが、昨夏のマレーシアGV参加をきっかけに、学園祭(三田祭)で団体リーフレットを配った他、フリーマーケット



トに出店したりと徐々に活動を広げてきました。CClubとなった今、ハビタットの一員として活動できる利点を生かし、全国で同じように活動を展開する他のCC&CClubから多くを学びたい、そして、合同イベントなどを通じて、大学の枠を超えた大きな活動の輪に加わり、Ripplusと共に自分自身を成長させていきたいと思っています！

合同イベントぜひやりたいですね♪  
Ripplusの今後の活躍に期待です！

## 海外建築ボランティア活動報告

今春も全国各地より集結したボランティア“JAPAN HOPE BUILDERS”がタイでの住居建築活動を終え、このほど帰国しました。今回、第一陣9名がバンコク郊外のPathumtaniで、第二陣が東部のRayongにてそれぞれ8日間に渡る作業を行い、真夏間近の青空の下、現地スタッフ、大工さん、そしてホームオーナー家族と一緒に汗を流し、ホームオーナー家族が新生活のスタートを切るための新居とそして希望を築くお手伝いをしてきました。ワークの他にも孤児院、小学校を訪問し、現地の子供たちとの交流の他、市内観光、最終日には家の贈呈式を行いました。今夏も引き続き、参加募集を行う予定です。あなたも国を越えて、現地の人たちと共に汗を流し、異文化に触れ合いながら、世界の現状を学ぶ住居建築活動(GV)に参加してみませんか！(事務局)



## 思い出を柱に新たな家づくりへ

～ハビタット学生支部卒業イベント～

全国のCC&CClubから今年も総勢160人以上のメンバーが旅立ちます。同じ屋根の下で活動してきた仲間と、最後に思いを分かち合うため、関東(1/10)、関西(3/16)で卒業イベントを開催。当日は合同チャリティーイベントなど、ハビタットと歩んだ学生生活を振り返るスライド上映やハビタットにまつわるゲーム大会を行い、思い出に残る温かい会となりました。活動を通して学んだことについて卒業メンバーからは、「援助と自立支援の違いを学んだ」「家の大切さを改めて考えた」「GVの経験は何事にも代えがたい」などなど、ハビタットで得たものの大きさを感じさせる多くの声が聞かれました。これらハビタットでの経験を柱に、新たな進路でのご活躍を期待したいと思います！そして、そんな先輩方に負けない土台や柱を築けるよう、私たちも多くを学び、活動を盛り上げていきたいと思っています！(早稲田大学CClub・坂井晴香)



## 社会体験学習@ハビタット!!

**東**京女学館中学校の生徒6名が、2月3日、ハビタット・ジャパン事務局を訪問。ボランティア体験学習を行いました。そもそもの出会いは、2009年秋に開催された国際協力の祭典「グローバルフェスタJAPAN2009」。ハビタット・ジャパンが出展したブースを訪れた方、約1000人。その6/1000にあたる小さな訪問者が彼女たちでした。学生ボランティアやスタッフから海外住居建築活動について直接話しを聞き、ハビタットの活動に興味をもった彼女たちは、学校の課題である「社会貢献学習」の一環として、ハビタット・ジャパンでのボランティア活動を選びました。



当日は、資料作成・整理やニュースレター送付のお手伝いなどをする一方、事務局スタッフよりハビタットの団体紹介や海外での住居建築活動(GV)についてビデオを交えて話しを聞き、各々が予め用意してきた疑問・質問に対する答えを探していました。短い時間でしたが「家の大切さ」を再認識した若き6人。近い将来一緒に住居建築活動が行えることを期待しています。(事務局)

## 今後の予定・ご案内

「中田宏×ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパン ～草の根の国際協力と若者が紡ぐ日本の未来」と題して、ハビタット・ジャパンの活動に参加する学生(全国1,500名)の代表らと、前横浜市長・中田宏氏がディスカッションを行い、ハビタット・ジャパンの住居建築活動をはじめとする海外ボランティア活動に参加する若者が、草の根の国際協力を通じて何を学び、またそうした経験が若者そして日本の将来に与える意義とは何かについて議論を交わす予定です。(事務局)

**日時:** 6月6日(日) 12時30分～15時30分

**会場:** JICA地球ひろば セミナールーム301

\*開催時間に若干変更の可能性がります。



## 寄付・助成金リスト (2010.1.1-3.31)

みなさまのご支援は「誰もがきちんとした場所で暮らせる世界」実現のために使わせていただきます。ご支援ありがとうございます。(敬称略・順不同)

1/8	横浜ユニオン教会	59,000
1/12	タイレストラン Siam	8,330
1/19	川崎 耕次	2,843
1/20	関東JCC	27,857
1/21	川辺 悠平	1,000
1/22	栗田 真澄	2,000
1/26	関西大学 (MusterPeace)	23,000
1/27	関西国際大学 (KICA)	20,000
2/1	関西学院大学 (上ヶ原ハビタット)	37,096
2/3	ユニナイテッドピープル (株)	1,600
2/10	安保 亮	3,000
2/15	関西学院大学 (Eco-Habitat)	43,601
2/15	ホテルニューオータニガーデンチャペル	36,000
2/17	pAiR	18,987
2/18	関西学院大学 (上ヶ原ハビタット)	17,326
2/25	神田外語大学 (HFH KUIS)	52,460
2/26	立命館アジア太平洋大学 (Habitat APU)	63,417
3/3	早稲田大学 (WHABITAT)	30,986
3/26	京都外国語大学 (Kyoto Gaidai Habitat)	84,374
3/31	チャリティ・プラットフォーム	4,448

## 編集後記

昨年のインドネシアに続き、今年に入ってから、ハイチ、チリ、メキシコそして再びインドネシアと、世界各地が地震の脅威に直面する中、今回の地震による住居倒壊の多くが人災であることも徐々に明らかになってきました。被災者支援において、まず目を向けられるのが食糧、水といった人命にとって緊急性を要する物資ですが、それと同時に今回、改めて、「安全で丈夫な家」の重要性を実感させられる機会であったと思います。地震大国日本だからこそできる私たちの役割を今後とも模索していきたいと思ひます。引き続きのご支援、お願いいたします。(事務局)



ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパンは、住宅を建てることでコミュニティを築く自立支援型NGOとして、これまで、人種、宗教、国籍に関係なく100カ国で35万軒余の住宅建築支援を行ってきました。そして現在、世界中で2分に1軒のペースで住宅を建てています。

〒160-0023 東京都新宿区西新宿4-17-3  
 ベル・パークシティ西新宿217  
 Tel: 03-6304-2543 / Fax: 03-6304-2544  
 URL: www.habitatjp.org / Email: info@habitatjp.org

発行人: 芹澤充子  
 編集人: 山崎顕太郎、高橋範子、山本真太郎、  
 真木晴奈(学生代表)、白石翔太(学生代表)

